

富士通グループ グリーン物流調達基準



いつも地球を見守っている

2011年6月2日(第1.0版)

富士通株式会社

サプライチェーンマネジメント本部

物流企画部

目次

1. はじめに.....	2
2. 富士通グループ環境方針.....	3
3. グリーン物流調達について.....	4
3.1. 目的.....	4
3.2. 適用範囲.....	4
4. グリーン物流調達の要件.....	5
4.1. ISO14001 外部認証やグリーン経営認証などの取得.....	5
4.2. データの提供.....	5
4.3. 輸送ルートの見直し.....	5
4.4. 積載率の向上.....	5
4.5. 空荷運行の低減の推進.....	5
4.6. モーダルシフトの推進.....	5
4.7. 航空便輸送の抑制(環境負荷の少ない輸送の推進).....	5
4.8. エコドライブの推進.....	5
4.9. 低燃費タイヤ装着の奨励.....	5
4.10. 低公害・低燃費車の優先採用.....	6
4.11. 車両整備の徹底.....	6
4.12. 梱包・包装資材の低減・廃止の励行.....	6
4.13. 生物多様性保全の取り組み.....	6
別紙1 富士通グループ会社一覧.....	7

1. はじめに

富士通グループは、FUJITSU Way の企業指針に掲げた「社会に貢献し地球環境を守ります」に基づき、美しい地球環境が次の世代へと受け継がれるよう、環境保全を経営の最重要事項の一つと位置づけています。

こうした考えのもと、事業の独自性を反映させた環境経営を推進するために「富士通グループ環境方針」を定めています。また、環境コンセプト「Green Policy 21」、2020 年をターゲットとする中期環境ビジョン「Green Policy 2020」、具体的な目標を明確にした「富士通グループ環境行動計画」を策定するとともに、グリーン ICT の提供を通じてお客様・社会の環境負荷低減をめざす「Green Policy Innovation」を推進しています。

富士通グループは 2010 年から 2012 年度における新たな環境活動の目標である「第 6 期富士通グループ環境行動計画」を策定・公開し、お客様と社会への貢献、自らの変革、および生物多様性の保全の観点から当社グループの環境活動をグローバルに強化する目標を設定しています。たとえば ICT 機器の効率やソリューションの環境負荷低減効果を向上する「先端グリーン ICT の研究開発」、事業活動から排出される「温室効果ガスの総排出量を 2020 年における科学的知見なども踏まえ 2012 年度末までにグローバルで 1990 年度比 6%削減」、「事業活動における生物多様性への影響や貢献を測る定量指標の構築と運用」、「国内輸送 CO2 排出量を 2012 年度末までに 2008 年度比 11%削減する」などを目標としています。

これらの方針・目標などを通じて、全事業領域にわたり計画的かつ継続的に活動を展開し、自社の環境負荷低減に努めるとともに、お客様・社会の環境負荷低減に貢献していきます。

富士通グループは、グリーン物流の考え方を「富士通グループ グリーン物流調達基準」にまとめ、お取引先様にお願いしていきます。富士通グループは、本調達基準に基づくグリーン活動を推進し、今後とも地球環境保全に対する社会的責任を果たしてまいります。お取引先様の一層のご理解と、ご協力を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

2. 富士通グループ環境方針

富士通は、1935年の創業以来、「自然と共生するものづくり」という考えのもと、環境保全を経営の最重要事項の一つと位置づけ、富士通グループの事業の独自性を反映させた環境経営を推進するために「富士通グループ環境方針」を定めています。

富士通グループは、この方針を基本に環境保全活動に取り組んでいます。

理 念

富士通グループは、地球環境保全への取り組みが重要な経営課題であると認識し、ICT企業としてその持てるテクノロジーと創造力を活かし、社会の持続可能な発展に貢献します。また、事業活動にかかわる環境法や環境上の規範を遵守するにとどまらず、自主的な地球環境保全活動に努めます。さらに、豊かな自然を次の世代に残すことができるよう、すべての組織と一人ひとりの行動により先行した取り組みを継続して追求していきます。

行動指針

- ◆ 優れたテクノロジー、ICTプロダクト、ソリューションによる総合的なサービスの提供を通じ、お客様や社会の環境負荷低減と環境効率の向上に貢献します。
- ◆ 環境と経済の両立に貢献するビジネスを積極的に推進します。
- ◆ ICTプロダクトおよびソリューションのライフサイクルのすべてにおいて環境負荷を低減します。
- ◆ 省エネルギー、省資源および3R(リデュース、リユース、リサイクル)を強化したトップランナー製品を創出します。
- ◆ 化学物質や廃棄物などによる自然環境の汚染と健康被害につながる環境リスクを予防します。
- ◆ 環境に関する事業活動、ICTプロダクトおよびソリューションについての情報を開示し、それに対するフィードバックにより自らを認識し、これを環境活動の改善に活かします。
- ◆ 社員一人ひとりは、それぞれの業務や市民としての立場を通じて気候変動対策や生物多様性保全を始めとした地球環境保全に貢献し、更に広く社会へ普及啓発を図ります。

4. グリーン物流調達の要件

4.1. ISO14001 外部認証やグリーン経営認証などの取得

お取引先様におかれましても、環境保全活動を推進し、継続的改善が実現できる体制の構築をお願い致します。そのため、基本的には、ISO14001 の外部認証やグリーン経営認証などの積極的取得の取り組み(取得済みの場合は継続取得)をお願い致します。

4.2. データの提供

省エネルギーを進めるためには、貨物輸送に伴うエネルギー使用量の実態や取組の状況を定期的に把握する必要があります。お取引先様におかれましてはこのことをご理解いただき、貨物重量、輸送距離、車両種類等のデータを月毎に提供をお願い致します。

4.3. 輸送ルートの見直し

総走行距離の短縮、より効率的な輸送の採用をお願い致します。

4.4. 積載率の向上

複数搬入先の纏め輸送、共同輸送等の推進を行い、トラック 1 台当たりの製品積載効率の向上をお願い致します。

4.5. 空荷運行の低減の推進

トラックの片道運行から往復運行を推進し、空荷運行の低減を行うことによる更なる輸送効率の向上をお願い致します。

4.6. モーダルシフトの推進

エネルギー消費量が少なく、大量輸送が可能な船舶、鉄道輸送等のモーダルシフトの推進をお願い致します。

4.7. 航空便輸送の抑制(環境負荷の少ない輸送の推進)

環境負荷を抑制するために、できるだけ航空便の輸送を避け CO₂ 排出量の少ないトラック、船舶、鉄道での輸送をお願い致します。

4.8. エコドライブの推進

駐車時のアイドリングストップや、無用な空ぶかし、穏やかな発進と加速、早めのシフトアップ、エンジンブレーキの多用など、燃費をよくするエコドライブの実践を行うことで環境にやさしいドライビングをお願い致します。

4.9. 低燃費タイヤ装着の奨励

低燃費タイヤを積極的に採用し、環境にやさしいエコドライブをお願い致します。

4.10. 低公害・低燃費車の優先採用

天然ガス自動車やハイブリット自動車などの低公害・低燃費車を優先採用することで、大気汚染、地球温暖化を軽減することをお願い致します。

4.11. 車両整備の徹底

環境に配慮した輸配送を行うための車両の点検・整備をお願いします。

- ・燃費向上のためにエアエレメントの定期的な清掃・交換
- ・省燃費オイル及び自動車用環境配慮エンジン油の適用や走行距離、使用期間に応じた交換
- ・タイヤ空気圧の適正値の点検及び窒素ガスの充填
- ・油飛散事故防止の為に始業前の燃料・油漏れ点検

4.12. 梱包・包装資材の低減・廃止の励行

品質保証面に十分に配慮しつつ梱包・包装資材の低減・廃止をお願い致します。

4.13. 生物多様性保全の取り組み

物流・輸送の過程では、生物多様性へ直接影響を及ぼす可能性があります。下記の点にご注意ください。

(1) 外来種の管理

輸送における外来種の持ち込みと持ち出しは、その土地の在来種への影響、農林水産業への影響、人体への影響を与える可能性があります。そのため、物流においては外来種を持ち込まない、外来種となるものを持ち出さないよう管理していくことが必要です。国外に対してだけでなく、国内においても多様性を守るためには管理することが重要です。例えば、以下のような対応をお願い致します。

- ・船舶のバラスト水に関する対策を検討・実施して下さい。
- ・コンテナ・パレット等に付着する昆虫・種子等に注意して下さい。
- ・検疫制度への協力や、自主燻蒸に取り組んで下さい。

(2) 運送ルート・運行の配慮

トラック輸送を行えば、自動車からの排気ガスによる生物多様性への影響の恐れがあります。特に山岳地域を通行する場合、生物多様性の豊かな地域への影響の恐れがあります。また、船舶では希少野生動植物が生息・生育する海域や国立公園等の航行は生物多様性に影響を与える可能性があります。運送ルート・運行においては、生物多様性に配慮する必要があります。例えば、以下のような対応をお願い致します。

- ・運輸時のルート選定において生物多様性への影響の少ないルートの選定をお願いします。
- ・低公害車の利用やアイドリングストップを行い、排気ガスの排出を抑えて下さい。
- ・航空機輸送、トラック輸送を鉄道、船舶輸送に切り替え、排気ガスの排出を抑えて下さい。

(3) 生物多様性に配慮している業者の選定

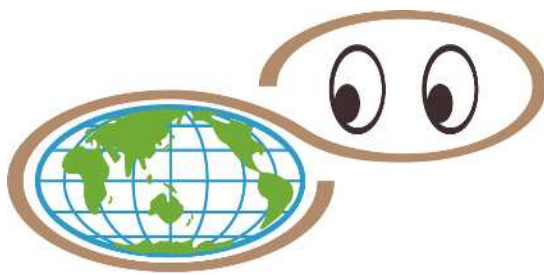
生物多様性に配慮している輸送業者を積極的に選定し業務委託することにより、生物多様性保全を推進して下さい。

別紙 1 富士通グループ会社一覧

項	正式会社名
01	富士通株式会社
02	富士通アイソテック株式会社
03	株式会社富士通ITプロダクツ
04	富士通アイ・ネットワークシステムズ株式会社
05	富士通テレコムネットワークス株式会社
06	富士通インターコネクトテクノロジーズ株式会社
07	富士通化成株式会社
08	富士通コワーコ株式会社
09	富士通コンポーネント株式会社
10	株式会社富士通エフサス
11	株式会社島根富士通
12	富士通周辺機株式会社
13	信越富士通株式会社
14	新光電気工業株式会社
15	株式会社トランストロン
16	株式会社富士通マーケティング
17	株式会社PFU
18	富士通フロンテック株式会社
19	富士通ワイヤレスシステムズ株式会社
20	富士通セミコンダクター株式会社
21	富士通エレクトロニクス株式会社
22	富士通モバイルフォンプロダクツ株式会社
23	富士通アプリコ株式会社
24	FDK株式会社
25	株式会社富士通パーソナルズ
26	富士通エフ・オー・エム株式会社
27	富士通テン株式会社

富士通グループ会社につきましては、今後、変更することがあります。

【改訂履歴】



いつも地球を見守っている

【お問合せ先】

富士通株式会社

サプライチェーンマネジメント本部

物流企画部

TEL : 044-754-2298

FAX : 044-754-2566